



# S.A

Science Ambassador

## 東北大学

サイエンス・アンバサダー  
活動報告書 2025



## 東北大学サイエンス・アンバサダーとは - About US -

東北大学サイエンス・アンバサダー(以下SAと略す)は次世代女性研究者の育成を目的として2006年に創設された制度(当初はサイエンス・エンジェル)で、本学の有志の女子大学院生(性自認が女性も含む)が総長に任命されて様々な活動を繰り広げています。

例えば、SAは小中高生にセミナーやイベントで自然・人文・社会科学に携わる女性研究者の身近なロールモデルとして、科学や研究の面白さと魅力を伝え、将来の夢を育む機会を提供しています。同時にSA自身も男女共同参画やダイバーシティ・エクイティ・インクルージョンに関係するシンポジウムやスキルアップなどの機会を通じて自己・相互研鑽し、研究者としての使命感の意識醸成に努めています。



Tohoku University Science Ambassadors 2025

### 活動方針 -policy-



小・中学生や高校生に対して科学の魅力を伝えつつ、身近なロールモデルとなることを通して次世代の研究者を育成



研究に従事する使命感・責任感の醸成・研究者の卵としてのスキルアップ



世代や分野を超えた女子学生・女性研究者ネットワークの構築



Activity 1 出張セミナー・見学対応  
主に中学生・高校生を対象に、研究や大学生活について実際の体験に基づいてお話をします。



Activity 2 科学イベント  
子ども向けに科学を身近に感じてもらえるような実験や工作を行い、研究への興味を喚起します。



Activity 3 オープンキャンパス  
東北大学のオープンキャンパスにおいてセミナーを開催し、大学進学に興味を持つ中高生の疑問・相談に答えます。



Activity 4 note  
研究・大学院生活・進路選択の経験や、仙台の魅力、一人暮らし事情、座談会レポートなどについて、SA自身が執筆しています。

### 東北大学は日本初の「女子大学生」が誕生した大学です

東北大学が誕生した明治末頃の日本の大学は、旧制高校を卒業した男子学生のための学校であり、正規の学生身分で女性が大学に入学することは考えられていませんでした。ところが、大正2年(1913)にその「常識」を破る事件が起こりました。創立間もない東北帝国大学が、独自の判断で4人の女性の受験を認めたのです。

入学試験のさなか、文部省は「元来女子を帝国大学に入学せしむることは前例これ無きことにて頗る重大な事件にこれあり大いに講究を要し候」云々と事情説明を求める書簡を大学に送りますが、大学は委細かまわず、黒田チカ、牧田らく、丹下ウメ3人の合格を発表、ここに日本初の「女子学生」が誕生することになったのです。

3人の女子学生はやがて卒業して女性初の「学士」となり、その後も副手や大学院生として数年間大学での研究生生活を送りました。



黒田チカ 牧田らく 丹下ウメ

# 2025年度活動内容

## オープンキャンパス



日時 2025年7月30日(水)、31日(木)  
場所 理学研究科合同C棟多目的室

毎年開催しているオープンキャンパスでのSAによる説明会は、2日間で500名を超える来場者となり大盛況でした。どんな講義が受けられるのか、就職はどんな選択肢があるか、大学院に進学するとどうなるのか。文理を問わず、高校生向けに説明しました。



瀧口 綾音

●所属/教育学研究科 総合教育科学専攻  
●SA経歴/1年  
■参加SAコメント/「文系の研究って何するの?」という声を聞く機会が多かったです。そのような疑問の解消に貢献したいという気持ちが応募のきっかけです。この準備をする中で、今私は本当に研究を楽しんでいるということを改めて理解しました。研究の中身や方法だけでなく、「大学で研究することは楽しい!」という気持ちも一緒に来場者の皆さんにお伝えできていたら嬉しいです。



## 宮城県宮城第一高校 金研訪問

日時 2025年9月26日(金)  
場所 東北大学金属材料研究所

金属材料研究所に宮城第一高校の皆さんが来訪されました。SAは自身の進路や研究分野を紹介し、質疑応答を通じて高校生と交流を深めました。将来を考える生徒の皆さんにとって、有意義な時間となりました。



## 西多賀子ども会科学イベント

日時 2025年9月28日(日)  
場所 西多賀市民センター

理学研究科の金田雅司先生監督のもと、SA6名で小学生向けの出張科学イベントを実施しました。参加者は30名(低学年10名・高学年10名・保護者10名)!身近なものを使った科学ショーや実験を通じて、科学の面白さを体験してもらいました。



## SAマスコットキャラクター

### 「たまか」が誕生しました!

「タマネギ」と「チカ」を組み合わせて名付けられたサイエンス・アンバサダーの新しいキャラクターです。発芽した玉ねぎで、頭の緑芽は成長する女性の力を象徴しています。



- Science Ambassador -

### 制作者:張 亦弛さんよりコメント

(2025年度SA/医学系研究科 修士2年) ※所属や学年は2025年7月当時のもの  
「たまか」には、新しい時代を芽吹かせる若い力と、優しさの中にある芯の強さを込めました。どんなときも笑顔を決やらず、皆さんのそばで希望を届けられる存在になれば嬉しいです。

### 8月21日は「女子大生の日」

1913年8月21日、東北大学は、日本の大学で初めて女性の入学試験合格を官報に告示し、黒田チカ、牧田らく、丹下ウメの3名が日本初の女子大生となった事を世に知らせました。本学ではこの「8月21日」を「女子大生の日」として日本記念日協会に申請し、2020年7月に登録されました。

## 片平まつり



日時 2025年10月11日(土) 場所 エクステンション教育研究棟1階ホール、DEI推進センター

片平まつりでは、小学生以下のお子様から小中学生を対象に、LEDで光るカード作りやビタミンCで色が消える化学反応を楽しむ、4つの実験体験を実施しました。「たまか」の着せ替えシールコーナーも設けられ、160名の子供たちと保護者の皆様に楽しんでいただきました。



根岸 透子

●所属/薬学研究科 分子薬科学専攻  
●SA経歴/3年  
■参加SAコメント/実験は全てSA自身がデザイン・試行錯誤して計画されました。当日は未就学児・大人まで様々な方に科学の魅力を体感していただき、色が変化したとき、ライトが光ったときには「わっ!」と笑顔が溢れるイベントとなりました。実験も原理解説も真剣な眼差しで参加者の皆様を見て、SAも科学や研究の楽しさを再認識できました。



## まちぶらサイエンス



日時 2025年10月13日(月・祝)O.A.  
場所 宮城県松島町

松島を舞台に、小島よしおさんと身近な科学を紐解く番組を制作しました。現地の皆さんと共に、特徴的な地形から名産品に至るまで、身近に潜む「不思議」を科学の視点で解き明かし、地域の魅力を再発見しました。



大宮 七虹

●所属/情報科学研究科 システム情報科学専攻  
●SA経歴/1年  
■参加SAコメント/本番までの打ち合わせや資料の作成などは大変でしたが、SAの皆さんと協力しながら準備を進めることで、松島の魅力と理科の楽しさが伝わる素晴らしい番組ができたと思います。また、ロケ当日は小島よしおさんと一緒に実験を行うなど非常に貴重な体験ができ、とても楽しかったです!普段何気なく見ているテレビ番組も、多くの方が携わり、長い時間をかけて制作されているのだなと実感できました。

## 山形西高校 オンライン大学訪問

日時 2025年12月23日(火)  
場所 オンライン

理系分野の進路選択紹介のため、「西校理系プロジェクト」の一環として行われたオンライン訪問。実に79名の高校生が参加してくれました!工学研究科の山川優樹教授や医学研究科・災害科学研究所の児玉栄一教授と共に、SA3名が自身の研究内容や進路についてお話ししました。



SAが  
note記事を執筆

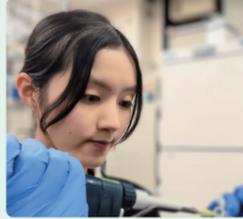


サイエンス・アンバサダー(SA)の  
活動の詳細はこちらから→



# SAインタビュー

活発に活動されてきた現役SAのお二人にお話を伺いました。



## 櫻井 夢乃

2020年3月 宮城県仙台第二高等学校 卒業  
2025年3月 宮城大学 食資源開発学類 卒業  
2025年4月～ 東北大学大学院 生命科学研究所 博士課程前期 在籍

### Q SAとして活動を始めたきっかけを教えてください。

私は高校時代赤点を取るほど、理数科目が苦手でした。けれども、サイエンス・エンジェル時代のSAの方々から、研究で発見をする面白さや、進路の考え方についてお話をお聞きし、前向きに研究の道を目指すように思えるようになりました。地道にできることを増やした結果、今、院生まで研究を続けられています。おこがましいですが、この経験が、誰かにとっての、研究に触れる小さな糸口になればと思います。SAを始めました。

### Q 文系の企画にも参加されていましたが、感想を教えてください。

研究を伝えるうえで、文系的な視点がヒントになるのではという思いから、企画に参加しました。皆さんとの交流を通じ、文系研究では、どうしたら誰もが「納得」できる答えを導けるかという所に、焦点を当てている印象を受けました。一方自然科学では、専門分野が細分化されており、一見しただけでは、疑問や感動に結びつきにくい所もあると思います。だからこそ、自然科学研究の生き生きとした景色を届ける方法を探していきたいです。



## 出牛 瑠衣

2017年3月 仙台市立仙台青陵中等教育学校 卒業  
2022年3月 岩手大学 農学部 応用生物化学科 卒業  
2022年4月 研究留学(カナダ, 1年)  
2025年3月 東北大学大学院 生命科学研究所 修士号取得  
2025年4月～東北大学大学院 生命科学研究所 分子化学生物学専攻 分子遺伝生理分野 博士課程後期 在籍

### Q これまでのSA活動の中で印象に残ったことを教えてください。

2024年に「東松島市 理工系女子によるチャレンジ教室」に講師として参加した経験です。「DNA抽出実験」の企画運営を行ったのですが、小中学生が楽しんでくれるような実験を考え、SAメンバーと協力しながら試行錯誤した過程が印象に残っています。イベントでは、参加者だけでなく親御さんも笑顔で実験を行う様子に、妥協せずに準備を頑張って本当に良かったと思いました。

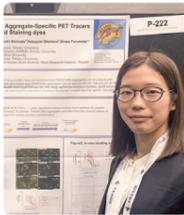
### Q note編集部のまとめ役をされていますが、思いを教えてください。

DEIセンターにて広報スタッフとして活動した際にnoteが小中高生・先生方にとってSAを知る場の一つと知りました。当時は記事発信数の減少という課題がありましたが、各SAが自由に記事を作成・発信できる仕組み作りで改善を目指してきました。小中高生にとって、大学・大学院に入った後の魅力や可能性を1つでも多く知ることができるメディアに、SAのnoteを育てていきたいです。

## 先輩から後輩へのメッセージ

### 横山 裕香さん

2015年3月 愛知県立時習館高等学校 卒業  
2020年3月 秋田大学 理工学部 物質科学科 応用化学コース 卒業  
2022年3月 東北大学大学院 医学系研究科 医科学専攻 分子イメージング教育コース 修士課程 修了  
2025年3月 東北大学大学院 薬学研究科 薬科学専攻 博士後期課程 修了  
2025年4月～ 新潟大学 脳研究所附属統合脳機能研究センター 臨床機能脳神経学分野 特任助教



3年間のSA活動を通じて、研究にしっかり取り組むSAの皆さんとお互いに助言・協力する貴重な経験を得られました。私は高校からPETイメージング研究を行う研究者になると行動してきましたが、自分よりはるかに優秀なSAの皆さんと活動するたびに勉強になることが多く、真摯に努力しなければと身の引き締まる思いでした。SA活動に参加することが皆さんにとって何かの糧になればと思います。

### Yiyao CHENGさん

2022年10月～2023年3月 東北大学 教育学部 学部研究生  
2025年3月 東北大学 教育学研究科 卒業  
2025年4月～ 本田技研工業株式会社



将来に正解は一つではないと思います。私たちは変化の時代を生きており、未来は固定されたものではありません。だからこそ不安にとらわれ過ぎず、まずは自分で選び、歩みながら柔軟に軌道修正していくことが大切だと感じています。SA活動を通して、多様な価値観や生き方に触れました。自分を知るためには、まず体験すること。挑戦を重ね、自分らしい答えを見つけてください。

## 今年度でご退官となる大隅先生に、SA創設時からの思いを伺いました。

SA: まずは大隅先生ご自身のご経験についてお聞かせいただきたいです。先生が教授になられた頃は女性研究者も今よりさらに少なかったと思うのですが……。

大隅先生: 私自身は東北大学の教授になるまで、女性だから苦労したという感じは実はあまりなかったんですね。海外の学会に行けば、たくさん女性研究者がいて、ロールモデルを見出すことができたので、ただ、入ってみたら医学部で初めての女性教授だったから、70人ぐらいいた教授会の中で私一人女性なんです。最初はそんなに大変なことじゃないと思ったんですけど、やっぱり少ないから変に目立ってしまうというのを実感して、「あ、これはやっぱりよろしくない状況だ」と思って。比較的若く教授にさせてもらったので、恩返ししないといけない、という思いもありました。

SA: 先生が立ち上げられたSAの活動も、次世代の女性研究者にとって心強いものとなっていると思います。SAの立ち上げ当初は、どのような思いがあったのでしょうか。大隅先生: 東北大学は、日本で初めての女子学生を入学させたという輝かしい伝統があったわけですが、当時は残念ながら理系に女性が少なかった。それを増やしていく上で、女子大学院生の皆さんに、中高生などのさらに若い人たちに語りかけてほしい

東北大学大学院医学系研究科 / 東北大学経営戦略本部アドバイザー / 日本学術振興会理事  
**大隅 典子教授**

1985年 東京医科歯科大学 歯学部卒  
1989年 同大学院 歯学研究所修了 歯学博士  
1998年より 東北大学大学院 医学系研究科教授(現職)  
2006年 東北大学総長特別補佐(男女共同参画担当)  
2018～2024年 東北大学副学長(広報・共同参画担当)および 附属図書館長



という思いがありました。大学院生くらいになると、ある程度専門性が身につけてきますよね。その専門性を活かして、例えば科学の面白さとか、どの分野でも身近なロールモデルがきっと見つかりますよ、ということも、さらに若い人たちに伝えてほしいと思って20年前に立ち上げました。

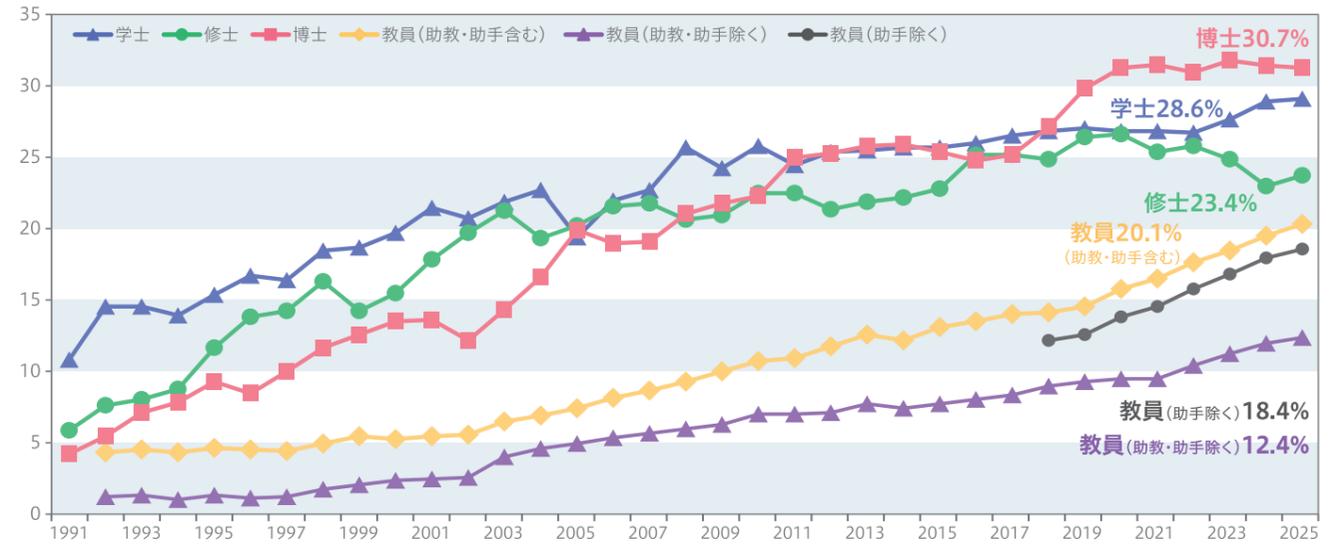
SA: 最後に、SAへのメッセージをお願いします。

大隅先生: SAのネットワークをぜひうまく活かしてほしいです。SAやOGの皆さんは色々な専門性を持っているし、お互いの関係性も、同じ時期に活動していた人から、ある程度年が離れている人までバリエーションがある。だから、プライベートなことも含めて色んなことを相談できると思います。将来、東北大学を離れて行っても、元SAという共通項がある人たちのネットワークは本当に大きな財産だと思うので、ぜひ自分のためにも後に続く人たちのためにも、繋がりを保ってほしいですね。

SA: 大隅先生、貴重なお話をありがとうございました。



## ▶東北大学における女性研究者比率の推移(教員数は、クロスアポイントメント・業務委託を除く)



## 女性研究者が活躍できる環境があります

東北大学では「両立支援・環境整備」「女性リーダー育成」「次世代育成」を目的に、研究・教育と育児・介護等の両立のための支援要員派遣やベビーシッター利用料等の補助、女性研究者のスキルアップのための研究費などの支援事業を実施しています。また、教職員・学生を対象とした3つの学内保育園および病後児・軽症病児保育室が整備されています。

詳しくはDEI推進センターのWeb「サポートプログラム」をご覧ください。



## SAのOGは国内外で幅広く活躍しています

### ▶大学・研究所・官公庁など

東北大学、九州大学、大阪大学、佐賀大学、国連大学、東京医科歯科大学、文部科学省、経済産業省、農林水産省、国土地理院、医薬品医療機器総合機構、日本原子力研究開発機構、国立極地研究所、科学捜査研究所、産業技術総合研究所、シカゴ大学(アメリカ)、IGB-Berlin(ドイツ)、ルーヴェン・カトリック大学(ベルギー)、高校教員、県庁職員など

### ▶民間企業など

製薬、食品、自動車、通信、化粧品、医療機器、化学、繊維メーカーなど、多岐の分野にわたる国内外多数の企業に就職しています。

## ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI)推進基金へのご協力をお願い

東北大学では東北大学サイエンス・アンバサダー活動の充実や、各種男女共同参画・女性研究者支援事業の実施、DEI Loungeの運営など「DEIあんしんPROJECT」実施のために募金をお願いしております。

▶寄附の方法・特典などに関するお問い合わせ先

東北大学基金事務局(東北大学総務企画部基金・校友事業室基金係)  
〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1

TEL 022-217-5058-5905

E-mail kikin@grp.tohoku.ac.jp

URL https://www.kikin.tohoku.ac.jp/



## 編集後記

報告書作成を通して、SA創設者でいらっしゃる大隅先生のお話を伺うなど、貴重な機会をいただきました。他にも、2025年度は文系大学院生のnote作成が始まり、マスコットキャラクターたまかが誕生するなど、実り多い一年になったかと思えます。編集を通して様々な刺激を受けることができました。作成にあたってご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。(写真左:後藤 茉梨栄)

今年度はマスコットキャラクターのたまかが誕生したことから、たまかのイメージに合う報告書にしたいと3人で話し合い、ユニグラフィックの皆様のお力もあって、素敵なデザインになったと思います。また、大隅先生にお話を伺うことができ、個人的にも学びと励みになりました。作成にあたりご協力いただいた皆様、ありがとうございました。(写真中央:日高珠希)

SAとしての活動は1年目ということもあり、昨年度も編集を経験された日高さんには多大なるお力添えをいただきました。また、今年度は報告書の作成にあたり、大隅先生へのインタビューという貴重な機会をいただき、来年度のSA活動に対する意欲がより一層高まりました。DEI推進センターの皆様をはじめ、作成にご協力いただいた全ての方々へ厚く御礼申し上げます。(写真右:金井美桜)



東北大学サイエンス・アンバサダーへのご依頼・お問い合わせ



## 東北大学ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI)推進センター

〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1

E-mail dei-center@grp.tohoku.ac.jp WEB https://dei.tohoku.ac.jp

WEB・SNSで情報発信中



WEB facebook X(Twitter)